



教会はいつも問題に直面します。外からの圧迫は絶えることはありませんし、内部にも様々な問題が起こります。世俗化したり教理の異端化などもありますし、人の交わりですから人間関係や運営上の混乱なども生まれます。

イエスキリストを信じるということは、そういう問題が起こらないことではありません。むしろ問題に対する対応の仕方に、教会らしさが表されます。

① 問題が起こる時こそ大切なことを確認する機会である

“そこで十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。…私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」

2,4

② 主の教会の奉仕に、優劣や聖俗の違いはない

“そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務め（＝食卓の奉仕）を任せることにして…” 3

“この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナそしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。”

5-6

③ 主が一人一人に与えられた奉仕に専念しよう

“私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。”4

“キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなが合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。” Iコリ4:16

聖餐のみことばと祈り

○主の招きのことば

“主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。

『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。』

夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。』”1コリ11:23-25

○悔い改めの祈り

○赦しのみことば

“神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。”1ヨ4:10

○聖別の祈り